

《抗リウマチ薬について》

- ① 関節リウマチの治療の基本は、**抗リウマチ薬**で関節の炎症をしずめ、痛みを和らげ、関節の変形を予防することです。なるべく早く治療を開始し、生活の質を保つことが大事です。
- ② 抗リウマチ薬の種類は
 - **免疫調整薬**：リマチル(ブシラミン)、アザルフィジン(サラゾスルファピリジン)、ケアラム(イグラチモド)、シオゾール筋注
 - **免疫抑制薬**：
経口剤・・・リウマトレックス(メトトレキサート)、プログラフ(タクロリムス)
JAK 阻害薬・・・ゼルヤンツ、オルミエント、スマイラフ、リンヴォック、ジセレカ
注射剤(バイオ製剤)・・・エンブレル、ヒュミラ、シンポニー、レミケード、シムジア、ナノゾラ、アクテムラ、ケブザラ、オレンシア、バイオシミラーとしてエタネルセプト BS、アダリムマブ BS、インフリキシマブ BS などがあります。
- ③ 治療をせず、もし関節が壊れてしまうと、痛みだけでなく手を使いづらくなったり、歩きづらくなったりと、生活にかなり支障が出やすくなります。股関節や膝関節は人工関節という比較的成績が安定した手術で機能を回復できますが、手指の関節については安定した手術法はまだないと思われます。また、関節リウマチの関節の炎症を放置すると、アミロイドーシスという内臓障害や血管炎を起こすことが有り胃腸や心臓、腎臓などが障害を受ける場合があります。
- ④ それぞれの薬は**有効性に個人差**があり、一つの薬はそれぞれ大体6~7割程度の有効率です。それらの薬をどのように選択するか、もしくは組み合わせるかは年齢、合併症などを考慮してご相談の上決めます。
- ⑤ 抗リウマチ薬は薬である以上**副作用が出る**ことが有ります。副作用を悪化させないためには**早期発見早期治療**につきます。そのために、**定期的な血液検査や尿検査、胸部レントゲン検査**をすることをお勧めします。
- ⑥ 抗リウマチ薬は少しでも**安全に使う**ことが大事です。それにはそれぞれの薬の副作用を専門的でなくてもよいので知っていただいて、**副作用が怪しいときには御自分の判断で抗リウマチ薬の服用を一時中止していただく**ことをお願いしています。(リウマチの薬で急にやめてはいけない薬はステロイド薬だけです。)
- ⑦ 治療が有効で症状のない状態(寛解)から薬を中止できる方もいますが、まだどのような場合に中止できるかははっきりとした指標はありません。個々のケースバイケースになります。

2023年3月24日